



ハントパイロットの設定

ハントパイロットは、アドレスを表す数字のストリングと、ハントリストにコールをルート指定するように関連付けられた数字操作のセットから構成されています。このハントパイロットは、ネットワークの設計に柔軟性をもたらします。ハントパイロットは、ルートフィルタおよびハントリストと連動して、コールを特定のデバイスに誘導し、特定の数字パターンの組み込み、除外、または変更を行います。

ハントパイロットの詳細については、『*Cisco Unified CallManager システムガイド*』の「ルートプランの概要」を参照してください。

ハントパイロットを追加、設定、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [ハントパイロットの検索 \(P.37-2\)](#)
- [ハントパイロットの設定 \(P.37-4\)](#)
- [ハントパイロットの削除 \(P.37-5\)](#)
- [ハントパイロットの設定値 \(P.37-6\)](#)

ハントパイロットの検索

ネットワーク内にはいくつかのハントパイロットが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のハントパイロットを見つけることができます。ハントパイロットを見つけるには、次の手順を使用します。



(注) Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ハントパイロットの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ハントパイロットの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート/ハント] > [ハントパイロット] の順に選択します。

[ハントパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Pilots)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン選択ボックスを使用して、ハントパイロットを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: ハントパイロット、検索条件:] ドロップダウン選択ボックスから、[パターン]、[説明]、または [パーティション] を選択します。



(注) このドロップダウンリストボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるハントパイロットのソート方法が決まります。たとえば、[説明] を選択すると、[説明 (Description)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

ステップ 3 2 番目の [検索対象: ハントパイロット、検索条件:] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているハントパイロットをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたハントパイロットのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ハントパイロットのパターン (Pattern)]
- [パーティション (Partition)]
- [説明 (Description)]
- [ルートフィルタ (Route Filter)]
- [ハントリスト (Hunt List)]

**ヒント**

検索結果内でハントパイロットを検索するには、**[絞り込み]** チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。

**(注)**

該当するハントパイロットの横にあるチェックボックスをオンにして、**[選択項目の削除]** をクリックすると、[ハントパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Pilots)] ウィンドウから複数のハントパイロットを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **[選択項目の削除]** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのハントパイロットを削除できます。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件と一致するハントパイロットをクリックします。

選択したハントパイロットがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.37-13 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ハントパイロットの設定

ハントパイロットを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified CallManager で次の項目が設定されていることを確認してください。

- ハントリスト
- パーティション ([<None>] を使用しない場合)
- ルートフィルタ ([<None>] を使用しない場合)



ワンポイント・アドバイス

ハントパイロットに 8XXX を割り当てると、電話番号 8000 ~ 8999 がすべてハントされます。同様に、82XX では、電話番号 8200 ~ 8299 がハントされます。ワイルドカードの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「特殊文字と設定値」を参照してください。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート/ハント] > [ハントパイロット] の順に選択します。

[ハントパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Pilots)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のハントパイロットをコピーするには、対象となるハントパイロットを見つけます (P.37-2 の「ハントパイロットの検索」を参照)。コピーするハントパイロットの横にある [コピー] ボタンをクリックします。ウィンドウに、そのハントパイロットのコピーが表示されます。[ハントパイロット] フィールドの値を変更し、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいハントパイロットを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のハントパイロットを更新するには、対象となるハントパイロットを見つけて (P.37-2 の「ハントパイロットの検索」を参照)、**ステップ 3** に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 37-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。



(注) [ハントリスト (Hunt List)] ドロップダウンリストボックスからハントリストを選択したら、[ハントリスト (Hunt List)] フィールドの横に表示される (編集) リンクを使用すると、選択したハントリストの [ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)] ウィンドウを表示することができます。[ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)] ウィンドウを使用して、該当するハントリストに含まれている回線グループを表示します。

追加情報

P.37-13 の「関連項目」を参照してください。

ハントパイロットの削除

ハントパイロットを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング] > [ルート/ハント] > [ハントパイロット] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するハントパイロットを見つけます。P.37-2 の「ハントパイロットの検索」を参照してください。
- ステップ 3** 削除するハントパイロットのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** ハントパイロットを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。



ヒント ハントパイロットの削除は、削除するハントパイロットを特定して表示し、[削除] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

P.37-13 の「関連項目」を参照してください。

ハントパイロットの設定値

表 37-1 では、[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。

表 37-1 ハントパイロットの設定値

フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[ハントパイロット]	<p>数字とワイルドカード（スペースを使用しない）を含むハントパイロットを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカルアクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベートネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、および D を指定できます。</p> <p> (注) 選択したパーティション、ルートフィルタ、および番号計画の組み合わせを使用する、ディレクトリ ハントパイロットが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ハントパイロット、変換パターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、メッセージ受信のオン/オフ、またはミーティング番号をチェックしてください。また、必要に応じてルートプランレポートもチェックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワイルドカードの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」を参照してください。
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを使用してハントパイロットへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウンリストボックスから適切なパーティションを選択します。ハントパイロットへのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [<None>] を選択します。パーティションの使用の詳細については、P.41-1 の「パーティションの設定」を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CMAAdmin Parameters] を選択します。</p> <p> (注) ハントパイロット、ルートフィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco Unified CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[説明 (Description)]	ハントパイロットの説明を入力します。
[番号計画 (Numbering Plan)]	番号計画を選択します。

表 37-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ルートフィルタ (Route Filter)]	<p>ハントパイロットにワイルドカード @ が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。オプションでルートフィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p> <p>表示されるルート フィルタは、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウンリスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[MLPP 優先度 (MLPP Precedence)]	<p>ドロップダウン リストボックスで、このハントパイロットに対する MLPP 優先度の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Executive Override] : MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。 • [Flash Override] : MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。 • [Flash] : MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。 • [Immediate] : MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。 • [Priority] : MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。 • [Routine] : MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。 • [Default] : 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。 <p> (注) 詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」の「優先順位」を参照してください。</p>
[ハントリスト (Hunt List)]	<p>ドロップダウン リストボックスから、ハントパイロットを追加するハントリストを選択します。</p>
[ルートオプション (Route Option)]	<p>[ルートオプション (Route Option)] の指定内容が、このハントパイロットをコールのルーティング (9.@ や 8 [2-9] XX など)、またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。[このパターンをルーティング (Route this pattern)] または [このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択してください。</p> <p>[このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択した場合、このハントパイロットをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。ドロップダウン リストボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Error] • [Unallocated Number] • [Call Rejected] • [Number Changed] • [Invalid Number Format] • [Precedence Level Exceeded]

表 37-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone)]	外部ダイヤルトーンは、Cisco Unified CallManager がローカル ネットワーク外にコールをルーティングすることを示します。ローカル ネットワーク外にコールをルーティングする各ハントパイロットに対してこのチェックボックスをオンにし、発信側デバイスに外部ダイヤルトーンを提供します。ネットワーク内のコールをルーティングする場合は、このチェックボックスをオフのままにしておきます。
[緊急優先 (Urgent Priority)]	ダイヤルプランにハントリストが重複して含まれている場合、数字列をダイヤルして現在の一致を選択できる場合にも、Cisco Unified CallManager は桁間タイマーが時間切れになるまでコールをルーティングしません。Cisco Unified CallManager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。
[ハント転送の設定 (Hunt Forward Settings)]	
[無応答時ハント転送 (Forward Hunt No Answer)]	<p>ハントリストを介して分散されるコールに対して一定の時間応答がない場合、このフィールドでコールの転送先を指定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] : このチェックボックスをオンにして、コールをこのハントパイロットに転送した最初の着信番号に対して Call Forward No Coverage (CFNC) の設定値を使用可能にします。 <p>CFNC 設定値は、システム管理者が [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで管理するコール転送の理由を指定します。電話番号へのコールが最初にカバレッジに転送され、カバレッジが残りわずかになったか時間切れになり、カバレッジの関連するハントパイロットが最後の転送先として [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] を指定している場合、コールは電話番号のカバレッジまたは着信先のフィールドの値に基づいて転送されます。</p> <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified CallManager は、[着信先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [着信先 (Destination)] : この設定値は、コールの転送先となる電話番号を示します。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されません。

表 37-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[話中ハント転送 (Forward Hunt Busy)]	<p>ハント リストを介して分散されるコールが一定の時間ビジー状態の場合、このフィールドでコールの転送先を指定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] : このチェックボックスをオンにして、コールをこのハント パイロットに転送した最初の着信番号に対して Call Forward No Coverage (CFNC) の設定値を使用可能にします。 <p>CFNC 設定値は、システム管理者が [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで管理するコール転送の理由を指定します。電話番号へのコールが最初にカバレッジに転送され、カバレッジが残りわずかになったか時間切れになり、カバレッジの関連するハント パイロットが最後の転送先として [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] を指定している場合、コールは電話番号のカバレッジまたは着信先のフィールドの値に基づいて転送されます。</p> <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified CallManager は、[着信先 (Destination)] ボックスと [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [着信先 (Destination)] : この設定値は、コールの転送先となる電話番号を示します。 • [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。
[最大ハントタイマー (Maximum Hunt Timer)]	<p>ハントの時間の最大値 (秒) を入力します。有効な値は 1 ~ 3600 です。デフォルト値は 1800 秒 (30 分) です。</p> <p>このタイマーは、ハント メンバーがコールに応答した場合、およびタイマーが時間切れになる前にハント リストのメンバーがすべて試された場合は、キャンセルされます。このタイマーに値を指定しない場合は、ハント メンバーが応答するか、ハント リストのメンバーがすべて試されるまでハンティングが続行されます。どちらのイベントも発生しない場合、ハンティングは 30 分間続行されます。30 分が過ぎると、コールに対して最終処理が実行されます。</p> <p> (注) ハンティングのホップ数が Forward Maximum Hop Count サービス パラメータで指定した値を超えると、この最大 30 分間のハント タイマー値に達していない場合でも、ハンティングが時間切れになり、発信者にリオーダー トーンが再生されます。</p>

表 37-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側変換 (Calling Party Transformations)]	
[発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]	<p>発信コールで完全な外線電話番号を CLID (発呼側回線 ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で外線電話番号マスクを設定することもできます。</p> <p> (注) ハント リスト内の回線グループに割り当てられる発信側変換設定値は、そのリストに関連したハントパイロットに割り当てられている発信側変換設定値をすべて上書きします。</p>
[発呼側変換マスク (Calling Party Transform Mask)]	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0～9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ([発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]) がオフの場合、発信側変換は行われません。詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」を参照してください。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0～9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CLIP/CLIR (発信側の回線 ID 表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco Unified CallManager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified CallManager で発信側の電話番号が表示されるようになる場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が発信側の電話番号を表示しないようになる場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p>

表 37-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CNIP/CNIR (発信側の名前表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco Unified CallManager が発信側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の名前表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified CallManager で発信側の名前情報を表示させる場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が発信側の名前情報を表示しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p>
[接続側変換 (Connected Party Transformations)]	
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、COLP/COLR (接続側の回線 ID 表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco Unified CallManager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 17-9 を参照してください。</p>
[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CONP/CONR (接続側の名前表示) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco Unified CallManager が接続側の名前を発信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の名前表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。接続側の名前を表示する場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 17-9 を参照してください。</p>

表 37-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側変換 (Called Party Transformations)]	
[番号の削除 (Discard Digits)]	<p>[番号の削除 (Discard Digits)] ドロップダウン リスト ボックスから、このハントパイロットに関連付ける数字破棄命令を選択します。表示される数字破棄命令は、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。北米番号計画の数字破棄命令の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「数字破棄命令」を参照してください。</p> <p> (注) ハント リスト内の回線グループに割り当てられる着信側変換設定値は、そのリストに関連したハントパイロットに割り当てられている着信側変換設定値をすべて上書きします。</p>
[着信側変換マスク (Called Party Transform Mask)]	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクである場合、変換は行われません。Cisco Unified CallManager は、ダイヤルされた通りの数字を正確に送信します。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>
[AAR グループの設定 (AAR Group Settings)]	
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。</p> <p> (注) このハントパイロットに対して AAR を使用可能にできるのは、回線グループのメンバーがすべて同じロケーションにある場合だけです。</p>
[外線番号マスク (External Number Mask)]	<p>ハントパイロットの外線番号マスク値を入力します。</p> <p>Cisco Unified CallManager はこのマスクを使用して、外部 (発信) コールの CLID をフォーマットします。AAR が再ルーティングを開始すると、システムはこの外線番号マスクをハントパイロット番号に適用し、着信側の完全修飾ドメイン名を形成します。そのため、AAR は、帯域幅が足りない状況でも正しく再ルーティングできるようになります。</p>

追加情報

P.37-13 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [ハントパイロットの検索 \(P.37-2\)](#)
- [ハントパイロットの設定 \(P.37-4\)](#)
- [ハントパイロットの削除 \(P.37-5\)](#)
- [ハントパイロットの設定値 \(P.37-6\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [ルートフィルタの設定 \(P.31-3\)](#)

■ 関連項目